

YOKOSUKA in 2006



横須賀

よこすか駅
神奈川県横須賀市
明治22年開業

海軍文化はここから発すべし

横須賀、呉、佐世保は、日本の三大軍港と呼ばれる。中でも、横須賀駅近くの車窓からは、軍港らしさを最も強く印象付けられる。この駅は、海岸ぎりぎりまで迫る山の裾にあつて、中心市街からは隔絶している。田浦から続くトンネルを抜けて、海岸線に取り付くと、目の前がいきなりグレー一色で占領される。まるで剣山のごとくレーダーを全身に纏った巡視艦が間近に迫る圧力は、およそ家並みばかり見てきた平穏な車窓の記憶を一掃するものがある。

駅はもともと頭端式のホーム一本で、山側の線路が後で久

里浜へ延長された。ホームをドーム型の改札ホールまで歩くと、終着駅のような哀愁と貫禄が入り混じる。ただ、個性際立つ駅舎は、駅前も含めて思いのほか野暮ったく、空疎な印象を受ける。質実で静かといえはそうだが、駅前から山が途切れるまで進むと、ドブ板通りや海軍カレーで話題となった和洋混成の繁華街が現れる。

周囲に高架道路や高層マンションができて、視界は悪くなる一方だが、海軍文化に独自性を求めるのだとしたら、横須賀駅こそ、その発信基地にふさわしかろう。中心市街の玄関である京急の横須賀中央駅とは、全く違った役割に、市の名を冠する意義を見出してもらいたいものである。